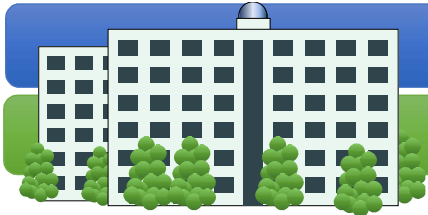


福島大学ミッション2030（新学長プラン）概要 令和2年10月



基本理念： 地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学

人口減少・少子高齢化時代における地方の「新しい社会づくり」の実現・モデル化

新しい社会と大学の目的

- 地方分散型で経済の低成長時代を人間的、創造的に生きていく知恵と技術
- 人口減少・少子高齢社会でも、一人ひとりが豊かに、希望に満ちて生きていけるライフスタイル
- 個人のWell-being、社会のWell-beingを実現をめざす大学

第4期における大学のあり方

- 社会に開かれ、異質な人々が会える場
- これからあるべき社会の姿を共に探究
- 新しい社会をつくるための思想や価値観、知識や技術、構想力や実践力を獲得
- 試行錯誤、実践と反省を繰り返し新しい社会を生み出す「社会づくりの実験室」であるべき

人材育成方針

- アカデミックな学び、震災・原発事故からの経験を活かす
- 10年先の課題を見すえた人材育成
- 地域および世界の「21世紀的課題」に取り組むイノベーション人材の育成
- 未来志向的、社会のハブ、困難な問題解決に挑み、社会の価値観や技術を創造的に再構成しようと挑む人材

大学改革の進め方

- 長期的に持続可能な新しい大学への転換をめざし改革を推進
- スリム化とイノベーションによる強化を進め、本学の「強み」を先鋭化
- 県内唯一の国立大学としてリーダーシップを発揮し、県内外の高等教育機関との連携を強化し、機能の共有・協働も実質化

教育のあり方

- 地域の現状・課題と大学での学びを重合、地域実践型プロジェクト学習を拡大
- 人材育成方針をすべての教育課程に通貫、学士課程から修士課程までの教育をシームレスに連続
- 基礎的な知識の習得と実社会での応用、地域と世界の問題発見、異世代も含めた異文化コミュニケーション、問題解決にむけた主体的な学習、などを高度に融合
- PBL、ICT、STEAM、グローバル、シティズンシップ等の教育を充実

研究のあり方

- 地域課題・21世紀的課題に対応した基盤的研究を政策的に強化、既存の学類・研究科の研究の「強み」を明確化
- 人文・社会・理工・農の各分野の高度な融合と総合性を実現させるために、異分野間の共同研究を推進
- 「発酵醸造研究所」を設置し、「浜通り地域の国際教育研究拠点」へ積極的に参画し、大学全体の研究・実践フィールドとして位置づけ

地域貢献のあり方

- 地域社会に新しい形を提案し、10年後を見すえた地域の在り方を追求
- 大学としてなすべき社会貢献の在り方を再構築して重点化
- アクション・リサーチのように教育・研究に還元される仕組みをデザイン
- 地域と協働し、学生の学びの場・研究のフィールド・地域の課題解決の3つの領域を有機的に融合

教員養成・附属校園のあり方

- ICTやPBL、アクティブラーニングなどに対応できる教育者養成の高度化
- 少子化を踏まえた経営を含む抜本的な改革、全学附属としてのメリットの強化

組織・運営のあり方

- 「地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学」としての教育・研究・地域貢献を可能とする新たな教育研究組織を構築
- 学類と学系、研究科の関係性を整理し、教育と研究を車の両輪として一体的に行うことが可能となる新しい教育・研究組織を創造
- 地方創生を目的とした定員増も見すえ、本学の発展をめざす



▶福島大学は東日本大震災・東京電力福島第一原発事故以降、他大学に先駆けて教育や自治体、環境、エネルギー、ロボット、農業、地域交通、コミュニティなどの様々な問題に取り組んできた

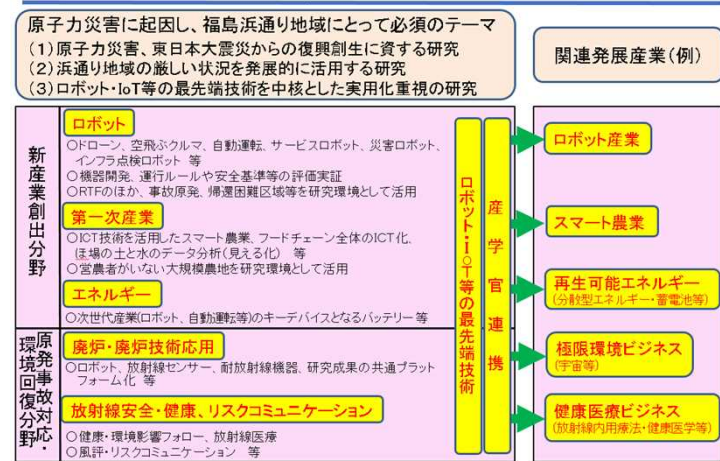
これらの知見を集積

2040年を見据えた福島大学の目指す姿

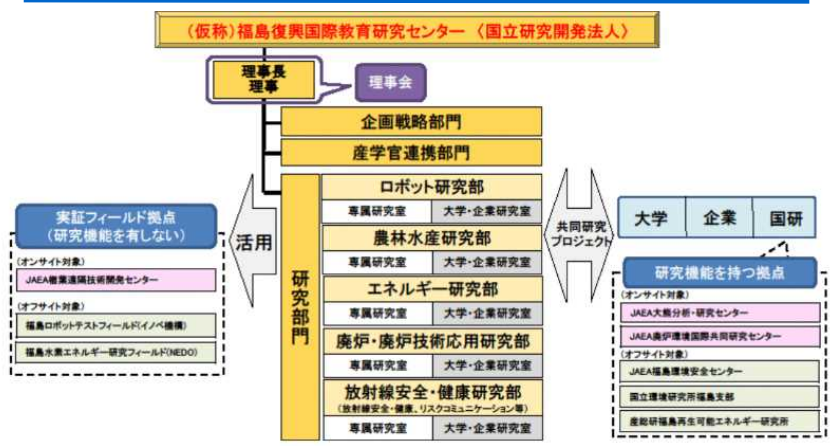
- ・「**地域と共に21世紀的課題に立ち向かう大学**」として、現実の問題に取り組み、**新しい社会のあり方を提案**できる大学
- ・人口減少・少子高齢社会期であっても、一人ひとりが豊かに、希望に満ちて生きていける**ライフスタイルを創造し、個人のWell-being、社会のWell-beingを実現**
- ・これからのあるべき社会の姿を考え、新しい社会を生み出す「**社会づくりの実験室**」としての大学

震災復興の知見と新しい社会づくりの理念を国際教育研究拠点へ

国際教育研究拠点が対象とするテーマ



国際教育研究拠点の組織イメージ



第一次産業を中心とする研究成果を浜通りに還元し、実装する必要性

さらに、復興の先にある、新しい社会づくり・地域づくりを目指す必要性

浜通りのさらなる復興の推進と新しい社会づくり・地域づくりに資するため、人文社会科学分野も含む「地域創生を担う新しいセクション」の設置を提言

「地域創生を担う新しいセクション」における社会づくりの研究・実証フィールドとして「モデルビレッジ」構想を提言

- ・第一次産業を中心とする研究成果を浜通りに還元・実装
- ・さらに、地域住民の要望や地域課題と最先端の研究シーズを融合し、そのイノベーションのモデルを全国、そして、世界に展開
- ・浜通り地域のある一定の広さを持つ土地・地域を、「特区」等も設けた研究・実証フィールドとして設定
 - 最大で、拠点の立地地域・研究タウンも含む一つの自治体全域を想定
- ・モデルビレッジに実際に人が定住することを想定し、コミュニティの維持・形成、地域づくりなどの研究を推進＝人文社会科学分野の研究が必須
 - 本学の全学的シーズを活用
- ・地域住民との協働
- ・高校生・社会人向けの学びも提供
- ・研究分野に応じた複数の領域を設定→領域は単独で完結するものではなく、学際的アプローチにより有機的に連携
- ・関係機関との連携

